



～つなぐ～

2017.9

Vol.1

医療法人 橘会
東住吉森本リハビリテーション病院

医療法人 橘会 理念

1. 患者さんの立場に立った、対話のある医療を提供するために努力します。
2. 地域医療施設との連携を深め、地域医療に貢献するために努力します。
3. より良い患者サービスをするために、働きがいのある職場環境の改善・維持に努めます。

東住吉森本リハビリテーション病院 基本方針

1. 患者さんと共に障害の克服に努め、家庭や社会への復帰を目指します。
2. 全人的医療を行うため、全職員が連携して患者さん一人一人に統合的アプローチを行います。
3. 地域医療機関と連携し、患者さんとそのご家族を支える環境構築に協力して、暮らしを応援します。
4. 職員が意欲を持って働くことのできる病院を目指します。

ごあいさつ

東住吉森本リハビリテーション病院

院長 原 輝孝



東住吉区住道矢田4丁目に当院ができたのは、平成15年4月のことでした。回復期リハビリテーションに特化した52床の小規模な病院でした。回復期リハビリテーションというのは、現在の医療制度の中で最もたくさんのリハビリテーションができるところです。そのため全ての患者様にご利用していただけるだけでなく、主に脳卒中や大腿骨骨折などの限られた疾患で、期限にも制限があります。ほとんどの場合、近隣の急性期病院で治療を受けたのちに当院に転院されます。当院では、365日できるだけたくさんのリハビリテーション（理学療法、作業療法、言語療法）を行い、在宅に向けての訓練を行います。そして各スタッフと話し合いながら、在宅療養に必要な介護サービスや住宅環境調整の助言なども行います。在宅療養が困難な方には、介護施設などへの入所のお手伝いをさせていただきます。

約14年間の間に、東住吉区を中心に平野区、住吉区、松原市などのたくさんの住民の方々に利用していただきました。今後も当院は、急性期病院と緊密に連携をとり、また在宅などの維持期への橋渡しとして、診療所の先生方とも連携を進めてまいります。

病院紹介

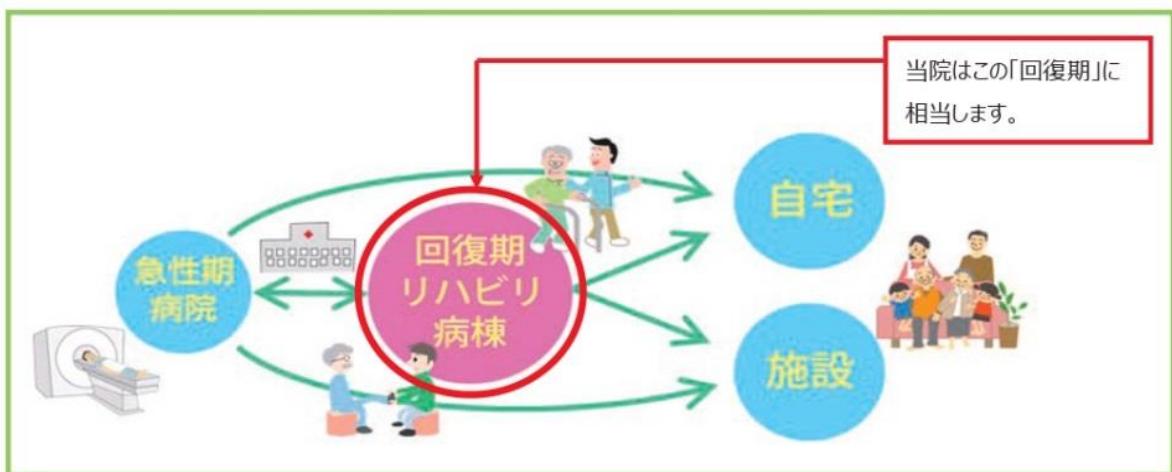


<当院の役割>

当院は、回復期病院の役割を担っているリハビリテーション専門の病院です。医師をはじめ各専門スタッフがチームを組み、「患者さんにとってのゴール」を設定し退院後の生活まで想定した内容で適切な治療を進めています。

回復期病院とは・・・

脳血管疾患または大腿骨頸部骨折などの病気で急性期^{※1}を脱しても、まだ医学的・社会的・心理的なサポートが必要な患者さんに対して、多くの専門職種がチームを組んで集中的なリハビリテーションを行い、心身ともに回復した状態で自宅や施設、社会復帰を目的とした病院です。これらの患者さんに対し、チームの各担当スタッフが入院後すぐ、寝たきりにならないよう、起きる、食べる、歩く、トイレに行く、お風呂に入るなど（これらを「日常生活動作」（ADL 動作）といいます）への積極的な働きかけで改善を図り、家庭復帰を支援していきます。



当院は52床と小規模ですが、合計100人のスタッフで365日体制のリハビリを行っています。入院後すぐにリハビリを開始し機能回復だけでなく、ADL動作や復職等の社会復帰も目指していきます。

<当院のスタッフ内訳>

医師	看護師	看護助手	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士
5人	24人	14人	23人	17人	7人
薬剤師	管理栄養士	放射線技師	医療相談員	医事課	合計
2人	1人	1人	3人	4人	101人

平成29年 8月現在

※1：急性疾患または重症患者の治療を24時間体制で行なう病院のことで、医療においては発症後14日間以内が急性期の目安とされます。

リハビリテーション

リハビリテーション（リハビリ）とは

リハビリテーション（リハビリ）とはラテン語でre（再び）-habiris（適した）、つまり再び適した状態になると直訳できます。辞書には、復権、社会復帰等の記載があります。

当院は1年を通じて1日2時間から3時間のリハビリテーションを患者さんに実施しています。その中で患者さんの自宅環境や社会環境に合わせて、基本的な動作能力（起き上がる、立ち上がる、歩くなど）、日常生活動作（食事、整容、更衣、排泄、入浴）や応用動作（家事、復職に必要な動作など）、嚥下や発語、高次脳機能障害などの回復を目指します。

また入院初期や退院に向けた家屋調査、退院後のサービスの調整等も実施し、より生活に密着した形でリハビリテーションを実施していきます。

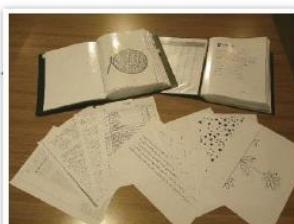
理学療法とは

起き上がる、車椅子で移動する、歩行など、生活に必要な基本的な動作の訓練を行います。



作業療法とは

食事をする、服を着るなどの身の回りの動作や簡単な作業から、仕事や家庭復帰のための訓練まで目標に合わせた訓練を行います。



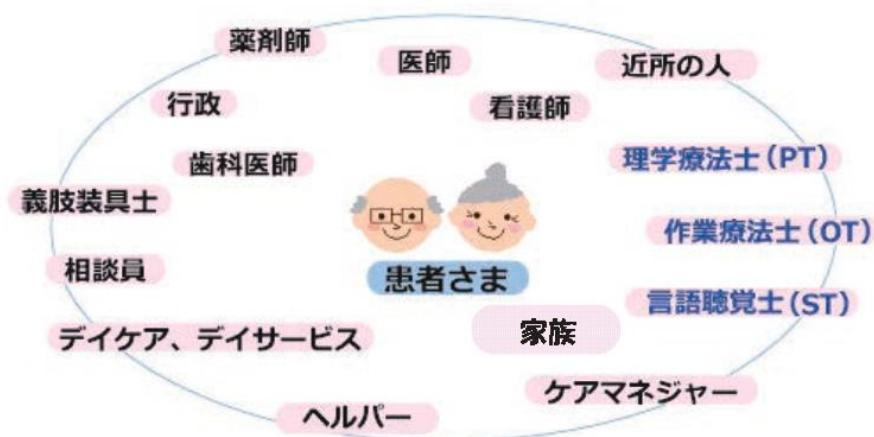
言語聴覚療法とは

言葉を話す、伝えるなどのコミュニケーション機能に障害を持つ患者さんへの訓練や食べることに対する訓練を行います。

つまり・・・リハビリテーションの中に「理学療法、作業療法、言語聴覚療法」が含まれるということになります。思いもよらず病気になり入院された患者さんが再び慣れ親しんだ地域に帰って行くまでの様々な問題に対して、解決する(=リハビリテーション)手段の1つに理学療法、作業療法、言語聴覚療法があります。

私たちは身体の回復だけを目指すのではなく、1人1人の社会復帰を目指し心も元気になって退院してもらうことを目指しています。

リハビリテーションを達成するために、患者さんはもちろん、地域をも含めたチームを組み、それぞれ役割がある時は分担し、またある時は役割を共有して関わります。もちろんその輪の中心には患者さんがいます。



<当院でのリハビリの特徴>

必要に応じて外来リハビリ^{※1}や訪問リハビリ^{※2}も行い、退院後も安心して生活できるよう支援しています。

過流浴や超音波、IVE S(低周波治療機器)などを使用した物理療法も積極的に取り入れています。



平行棒で歩行訓練をしています



理学療法室でリハビリをしています

※1 当院を退院された方が、自宅でも安心して生活が送れるように当院に来院していただき、リハビリを行います。（対応期間：およそ1～2ヶ月）

※2 当院を退院された方が、自宅でも安心して生活が送れるようにリハビリスタッフが自宅を訪問し、リハビリを行います。（対応期間：およそ3ヶ月）

入院生活の1日の流れ



1日の流れ

午前
6:30

- 起床 → 起居動作訓練
- 洗面・更衣 → 整容・更衣動作訓練

午前
8:00

- 朝食 → 食事動作訓練

午前
9:00

- 体温・脈拍・血圧などを測定
- リハビリテーション総合実施計画に沿って訓練
- 入浴 → 患者様の回復状態に応じた浴槽を使用し
入浴訓練



入浴日 男性：月水金 女性：火木土

午後
0:00

- 昼食 → 食事動作訓練
- リハビリテーション総合実施計画に沿って訓練
- 入浴 → 患者様の回復状態に応じた浴槽を使用し
入浴訓練

午後
6:00

- 夕食 → 食事動作訓練



午後
10:00

- 消灯

★出張美容：毎月1回（要予約）

★訪問歯科：毎週土曜日（要予約）

栄養科

初めての今回は当院で1番人気のメニューをご紹介させて
いただきたいと思います。

「焼きたてパン・ビーフシチュー・サラダ・ヨーグルト」です。

患者さんからも「具だくさんでおいしい」「パンが焼きたてで
おいしい」と好評です。

今後も入院中の患者様に食事で元気になってもらい喜んでもら
えるメニュー作りを頑張っていきたいと思います。



エネルギー 552kcal (1人分)

コラム



ヤマメとサクラマスの寓話

東住吉森本リハビリテーション病院

副院長 服部 玲治



魚には出世魚のように成長の過程で、姿かたちを変えていくものがいるのは皆さんよくご存じのことと思います。では、ヤマメとサクラマスの関係はご存知でしょうか。鮎とよく似た体重 100g のヤマメと、鮭とよく似た 3 Kg のサクラマスは、見た目も大きさも小船と戦艦ほどに異なります。実はこの両者、同じ魚です。彼等は稚魚のころ、川で豊富に餌を占領できる体格の大きいものと、おこぼれしか与えられない小さいものがあります。大きなものが サクラマスになる？ いいえ違います。川での生存競争に敗れた小さい稚魚は、餌を求めて追われるようにして 海へと下ります。ところがどっこい、この敗者、餌が豊富な海を回遊するうちに尋常じゃないほど大型化し、サクラマスへと豹変するのです。皆さんはこの話をどう捉えますか。随筆家の斎藤茂太さんは、「そのときは負けたように思っても、自分で自分に見切りをつけなければ、人生に「負け」なんてものは存在しません。人と競うではなく、サクラマスのように出来ることから少しづつ努力を重ねることが大事。」と説いておられます。全くその通りですね。ただ、この話にはまだ先があります。サクラマスとなったかつての小さい稚魚は、夏の産卵の季節に向け、壮絶な苦労をして 川を遡り故郷に帰ってきます。かつての勝組のヤマメは、今やサクラマスに尾びれで軽くあしらわれ、全く相手にもされません。さて、サクラマスのメスが産卵します。サクラマスのオスが、ブルブルと身を震わせた瞬間、ヤマメのオスが両者に割って入り、卵に自らの精子をかけることがあるのだそうです。もともと同じ魚ですから、もちろん受精は可能です。えっ、今流行のゲス不倫？ いえいえ、人生に「負け」なんてものは存在せず、最後まで諦めないことが大事というお話です。



編集後記

編集者 島田 瑞樹

このたび、広報誌「つなぐ」を発刊することになりました。近隣の皆様方に、当院からのお情報を発信させていただき、この地域での当院の役割やリハビリテーションを知っていただければ幸いと存じます。そして上手く当院を利用していただければと願っております。今後も、当院がこの地域で回復期リハビリテーションとしての担い手を続けていくよう、さらに努力を続けていく所存ですので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

病院概要

〒546-0022 大阪市東住吉区住道矢田 4-21-10

TEL 06-6701-2121 (代)

URL <http://www.tachibanmed.or.jp/morimoto-riha/>
<病院までのアクセス>

- ✿ 近鉄南大阪線 矢田駅から徒歩 約 15 分
- ✿ 大阪市バス 天王寺から住道矢田下車 2 分
- ✿ 北港観光バス 西田辺から住道矢田 8 丁目下車 3 分

